

<発表者の声>

●嶋崎 雅規先生（国際武道大学）

今回初めて千葉県体育学会で発表をさせていただきました。短い時間ではありましたが、日頃の研究成果の一部の発表と自身からの提案もさせていただきました。まずはこのような機会を与えていただいたことに感謝申し上げます。

少し慌ただしい発表になってしまったと反省しておりますが、みなさまに温かく迎えていただき、また貴重なご質問、ご意見などをいただけたことで、今後の研究活動の一助となりました。少人数で和やか、それでいて厳しい質問も飛び交う千葉県体育学会の雰囲気は、発表したものを成長させる素晴らしい環境だと思います。私もさらに研究を進め、みなさまの前でより良い発表ができるよう努力してまいります。みなさまとまた同じ時間が共有できることを楽しみにしております。

●伊藤 清良先生（国際武道大学）

今回初めて千葉県体育学会に参加させて頂きました。また一般発表の場を与えていただきましたことを感謝申し上げます。当日は初めての千葉県体育学会参加ということで、とても緊張していましたが、理事の先生方をはじめ、学会参加者の皆様がとても温かい（フレンドリーな）雰囲気で迎え入れていただき、非常に楽しく、有意義な学会参加となりました。学会では、それぞれの専門領域から体育・スポーツを通じて、地域や指導現場に寄与していきたいという共通の想いが伝わりました。また、大学院生のワークショップとして、修士論文についてのアドバイスを行っており、若手を育てていくという学会としての姿勢に強く共感いたしました。今後とも、他大学の先生方や、他の領域の先生方との交流、勉強、情報交換の場として参加させて頂ければと思います。ありがとうございました。

●長田 卓也さん（千葉大学大学院）

小さな自信と大きな悔しさに、同時に襲われた気分です。小さな自信の理由は、ある程度内容への関心やロジックに自信がある状態で発表した為、緊張などをする事なかったからです。等身大の自分と研究成果を出せました。大きな悔しさの理由は、等身大の自分だったからこそ、教授方のご助言が的を得ており、自分の未熟さを実感したからです。

今回の経験は、私の研究にとって大きな成長の機会となりました。成果としては教授方には到底及ばず、だからこそ挑戦しがいのある領域だと再認識も致しました。貴重な機会を提供してくださりありがとうございました。今後も精進して参りたいと思います。

●勝野 太介さん（千葉大学大学院）

プレゼンテーションを行って、これから改善していかなければならないと思ったことは主に二つありました。

一つ目に、正しい言葉を扱うことと、筋道を立てて説明をしなければならないことです。自分自身が説明力に適すると思って用いた言葉でも相手にはそれが違った事実として受け取られることや、あるいは言葉のチョイスが間違っており、ご指摘をいただいたことがありました。説明をする際には論理の飛躍や説明不足といったことが多々見受けられました。これからの研究生活の中でこの二点は常に意識していきたいと思います。

二つ目に、行動の理由をはっきりさせるということです。具体的になぜその手法を用いたのか、なぜ

その角度から撮影したのか、など自分で決定したことに対しての行動の理由を問われるとまだまだはつきりとしたものが見えてこないというのが全体の印象でした。研究の中で、常に「なぜ」の思考を働かせ思考のログを残していきたいと思います。

貴重な経験をさせていただきありがとうございました。